

令和２年度第１回山陽小野田市健康づくり推進協議会の書面による開催に伴う委員の方からの御意見等と市の考え方または対応等

１．母子保健事業について（１～７ページ）

事業	御意見・御質問等	市の考え方または対応
・すくすく 随時すくすく 育児相談	相談内容に深刻なものがあるか？あれば、どのように対応し、関係機関との連携はどのようになっているか？	相談内容は様々ですが、深刻なものとしては虐待に関すること、ＤＶなどが挙げられます。小児科医師、児童相談所、家庭児童相談員、民生委員児童委員、主任児童委員、母子保健推進員、市民活動推進課等の関係機関と連携を取り対応しています。
発育・発達事業（療育教室）	早期に対応できることが大切だと思うので、気軽に相談が出来る様にしてほしい。	発育・発達に関する相談はデリケートな内容であるため、相談するまでに時間がかかることがあります。幼児健診やその事後フォロー、保育園・幼稚園との連携の中で、保護者に寄り添いながら早期に対応できるように心がけています。
	保育園・幼稚園においても協力いただき早期発見療育できるように願う。	現時点でも保育園・幼稚園と連携を取りながら発育発達事業に取り組んでおります。今後も同様に実施してまいります。
妊婦健康診査	「健診費用を一部助成する」とあるが全額助成はできないか。 全額助成すると現行の一部助成よりどれだけの財源が必要となるか。	妊婦健康診査は、県内で標準的な検査内容等が示されており、当市でもそれに基づいた検査内容については、全額助成を行っています。ただし、妊娠経過によっては、それ以外の追加検査が必要となる場合があります、その検査については全額自己負担もしくは、医療保険適用での検査となります。追加検査は人によって様々であるため、試算は難しく、現時点においては、これ以上の助成は考えておりません。

妊婦健康診査（歯科健診）	費用の助成は考えているか。治療費まで全額助成すべきと考える。その場合、どの程度の予算が必要か試算すべきである。	歯科健診の費用は全額補助です。治療は、妊娠期間中には行えないものもあり、また、どこまでを治療の一環とするかの判断が難しく、試算は難しいと考えます。以上のことから現時点においては、治療費の助成は考えておりません。
幼児健康診査	幼児健康診査等を受診する方は、子育てに関心が有るので問題はないが、それ以外の親達への指導に工夫の余地があるのではないか。	受診されない方には、対象年齢内までは粘り強く受診勧奨をしています。対象期間を過ぎた方には訪問等で直接お会いし、子どもの成長発達、家庭環境の確認等を行っております。
産後ケア事業	全て公費で賄うのか。そのような配慮が必要である	所得に応じて 1 割負担としております。所得の低い方は全て公費としております。
母子事業全般的なこと	子育てを放棄している実態が有りこの様な社会は解消する必要がある。市内ではこの実態はないのか。	育児放棄をする実態は当市にもあります。子育て支援課の家庭児童相談員、民生児童委員、主任児童委員、母子保健推進員、保育園・幼稚園、教育委員会等関係する様々な機関と連携をとりながら対応しております。
	妊娠、出産、育児、発育と母子の健康・健全な発育と一貫した充実した事業計画と評価する。	今後子育て支援課をはじめ、関係各課、関係機関と連携を取りながら事業実施、普及啓発等に努めていきたいと考えております。
	市民行政が色々な面でサポート又は積極的な支援をされている。これをどんどん活用されることを願う。	
	妊娠中の歯周病による早産や低体重出産のリスクがあるということに驚き、若い方に伝えたいと思う。	今後も普及啓発に努め、安心・安全な出産に向けた支援を行っていききたいと考えています。

2. 成人保健事業について（8～13ページ）

	御意見・御質問	市の考え方または対応
健康体操	SOS体操の普及を進めることを望む。健康体操時に指導してはどうか？	市内の公民館及び福祉会館等11箇所、健康体操を実施しており、既に、SOSおきよう体操を取り入れております。また、各実施場所に保健師が年2～3回は出向いて必要な指導等を行っています。
健康マイレージ・健幸アプリ	現在、ジムなどの利用にも私自身抵抗を感じている。県が実施している健幸アプリを活用して県外に旅行に行ったり、ジムの利用ではなく、県内を目的をもって歩くなど健康増進につながる取組を市内住民にもっと勧めるといいと思う。	現在、市では健康マイレージ事業及びやまぐち健幸アプリを推進し、ホームページには市内のおすすめウォーキングコース等を掲載しています。これらの活用を市民に勧め、健康づくりへとつなげていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。
	健康マイレージ事業の実績は？健診等で配布はしているが、応援カードの発行がどのくらいあるのか。	令和元年度の実績については、令和2年度第2回の健康づくり推進協議会で報告します。
がん検診	前立腺がん検診が「市内の50歳～70歳の男性」となっているが、70歳以上の方が対象になっていないのはなぜか。	前立腺がん検診を開始する際に、医師会の専門医と協議の上、検診としての意義を考え、50歳～70歳までとしました。
	正直に言うと、コロナ禍で検診に行くのも躊躇しています。	検診実施機関には、検診時における感染症対策についての文書を送付し、感染予防対策を実施しながらの検診に御協力いただいております。厚生労働省からも自覚症状が現れにくい病気も少なくないことから、適切な時期の検診受診をすることが推奨されています。
	検診を受診する姿勢が自分を含め薄いと思う。いろいろと健診の必要性を聞くが、受診しないのは困りますね。	検診受診の意識向上のため、今後も様々な取組を実施していきたいと考えています。
	「お試し乳がん検診」は子育て世代の方には託児付きで助かると思う。	お試し乳がん検診は、令和元年度中に38歳になられる方、先着30名が受診可能な取組ですが、個別健診であったため、託児は付けておりません。なお、令和2年度は、集団健診でも受診可能な体制としており、託児付きの集団健診時にも利用可能です。

健康 若者 診 査	良いことだと思う。対象者は何人ぐらいか。また、費用は全額助成が望ましい。その場合どの程度の予算が必要か。	対象者は、対象人口から職場での健診の機会がある方等を除くため、正確な把握はできておりません。そのため、予算額の試算は困難です。
	40 歳以上の成人を対象とした保健事業に加え新規に若者対応の健康診査に他の制度で受診する機会のない人々、フリーター、失業者、学生、ホームレス等増加に伴い、賛同できる。	対象者への周知に努め、一人でも多くの方に受診していただけるよう、今後も努めていきます。
ひきこもり 支 援	ひきこもり支援を拡充されたのはよいと思います。ひきこもりについて、なかなか相談につながりにくいというのがあると思いますが、窓口の周知やその他について、なにか具体的な工夫などがありますか。	ひきこもりは、なかなか表に出にくい問題と認識しております。これまでもケアマネジャーやケースワーカーをはじめとした関係者からつながるケースが多く、まずは関係者への周知に力を入れます。また、ひきこもりであっても、コンビニ等は人のいない時間等に利用する方もいると聞いているため、市内のコンビニ等にポスター掲示と人目を気にせず手にとれるカードサイズのチラシを設置します。
	ひきこもり支援の相談支援窓口が、宇部市にある NPO 法人に委託となっていますが、市内での委託や市の窓口を設置することはできないでしょうか？	現在、委託した法人は既にひきこもり相談での実績があるところで。市内でひきこもり相談に対応可能な事業所等があるようでしたら、研究させていただきます。また、市の相談窓口は、現在、健康増進課となっております。
自殺 対 策 事 業 等	自殺対策、ひきこもり支援等、いずれも心のサポートは難しい。そうなる前に出前講座、子供市民教育推進事業等こちらから出向いて話をすることは、とても有意義な事だと思います。	昨年度より、出前講座、子ども市民教育推進事業等のメニューにころや自殺関係の内容を充実し、出向いての健康教育の実施体制を整備しています。
	不登校の生徒が多いようです。地域での見守りを考え、現実問題として地域にも知らせてほしいと思います。	不登校の生徒に関する地域の見守り等については教育委員会とも連携し、対応を考えてまいります。
般的 成 人 事 業 全 体	いずれも素晴らしい取組なので、あとはいかに多くの市民に周知徹底し、実施していただくかの問題が大きいです。	周知はいつも課題となります。一人でも多くの方に情報が届くように努めていきたいと考えておりますし、委員の皆様にも御協力をお願い致します。

3. 健康づくり事業について（14～16ページ）

	御意見・御質問	市の考え方または対応
健康増進計画推進事業	ソーシャル・キャピタルの醸成に向けた取組について、この事業の支援等だけで「醸成」が図られるか。ソーシャル・キャピタルとは非常に幅広い概念である。個々人の力によって地域力を上げることにより社会をより良くするという考え方であり、地域住民・個人がボランティア活動や各種活動に積極的にかかわることにより心身ともに健康になりひいては社会全体が健全になるということである。市民がどの程度ボランティア活動や地域活動に従事しているかアンケート調査等をして実態をつかみ今後の取組を考える必要がある。	ソーシャル・キャピタルの醸成に向けた取組は健康づくり分野だけでなく様々な分野とも関係が深いことは御指摘のとおりです。本市では昨年度から、スマイルエージングの「交流」の分野において市民ひとり一人が生きがいを持ち、支え合い、つながりを深める取組を全庁体制で検討しています。また、第2次健康増進計画を策定する際に、ボランティア活動や地域のための健康づくり活動についてアンケートを行い、実態調査を実施しています。令和5年度の間評価や令和12年度の最終評価でも同様の調査を行う予定にしておき、進捗状況の確認及び今後の取組を考えていきたいと思ひます。
SOS健康フェスタ	看護協会では、今年「まちの保健室」も中止しており、SOS健康フェスタへの参加も難しいのではないかと申す。イベント開催に関しては、内容や方法など十分な検討が必要と申す。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市でも様々な行事を中止及び延期にしています。今年度のSOS健康フェスタについては、情報発信を中心とした動画で実施する予定です。
	毎年フッ素塗布を行っていましたが、コロナ禍の状況で無理だと思っています。皆様の安全、安心を第一に考えたいと思っています。	
	SOS健康フェスタについては、新型コロナウイルスの流行が収まらない場合は、中止の検討が必要と感じた。	
	市民の健康づくりのPRにとてふ良いと思ひますが、少しマンネリ化している様です。今一歩楽しく参加出来るようにしたいです。	

スマイルエイジングプロジェクト	昨年度、このプロジェクトの立ち上げが目標であったが、立ち上げたのか。協議会は開催したか。	名称を「健康づくりの推進に関する医療保健専門職団体プロジェクト」と変更し、会議を4回開催し、専門職団体と健康づくりの取組について協議を行いました。
	プロジェクトの構成団体や進捗状況を知りたい。	構成団体は14団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、栄養士会、歯科衛生士会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、精神保健福祉士会、教育研究会、日本健康運動指導士会、山陽小野田市立山口東京理科大学）で構成しています。 昨年度は4回会議を開催し（1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）、専門職関係団体と目的を共有しながら、健康寿命の延伸に向けた自主的な新たな取組の検討を行いました。
	魅力的な新規事業の展開が楽しみです。3つの新規事業を集中的に取り組むことにより、スマイルエイジングプロジェクトを成功に導けたらと思います。	スマイルエイジングを市民と一緒に推進するために、新規事業や既存事業を活用しながら積極的に展開していきます。
スマイルエイジング健康講座 （出前講座）	自治会においても、健康教室を講師を招き開催を。	昨年度より出前講座等のメニューを増加して自治会等で実施可能な体制整備を行っています。御依頼をお待ちしております。
	毎年1回程度講習を開催しています。（老人クラブ）が65歳以上の高齢者対象の講習会等は、公民館活動として取り組みを進められると良いと思いますが？	スマイルエイジング健康講座シリーズでは各団体の依頼を受けて出前講座を実施しています。様々なテーマを用意していますので、ご利用いただけたらと思います。
	ウォーキングを推進していくための健康講座（出前講座）を開き自治会での定期的なウォーキングを推進できれば。	スマイルエイジング健康講座シリーズでは各団体の依頼を受けて出前講座を実施しています。外部講師によるウォーキング講座もありますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

スマイルエイジング強化月間制定事業	「心身の健康を保つ」「健康寿命の延伸」の実現に向けてのスマイルエイジングの推進強化対策は多いに賛成である。楽しみながら健康づくりに取り組む企画の市民からの募集 小、中、高校生からの募集等検討されたいと思う。	今年度からスマイルエイジング推進のために、11月をスマイルエイジング強化月間と制定し、その取組として、レシピやお弁当コンテストを行います。お弁当コンテストは小・中・高校生を対象に実施します。その他、市民や市内団体からおすすめのウォーキングコースを募集するなど、市民と一緒にスマイルエイジングに取り組むこととしています。
スマイルエイジングウォーキング推進事業	良いことだと考える。これを強力に推進するためには、“きっかけ”と“報酬（健康体プラスα）”が必要。“きっかけ”は、この「内容」に盛り込まれているが、実施した人には何か特典等を考えたいが、何か考えはあるか。（ポイントあるいは地元のちょっとした商品等が考えられる）	健康マイレージややまぐち健幸アプリなどを合わせて利用してもらうことでお得感を感じていただけるように工夫しています。また、ウォーキングコース募集では抽選で景品も準備しています。
たばこ対策	「喫煙と健康に関する正しい知識」は、今の時代、小学生からではなく低年齢の保育園、幼稚園児にも、たばこ→健康の話をする必要があると感じた。	保育園・幼稚園側とその必要性を共有し、連携を図りながら、日常の保育や教育の中でのたばこに関する知識の普及もふまえて行っていきたいと思います。

4. 食育事業について（17～19ページ）

	御意見・御質問	市の考え方または対応
野菜摂取及び減塩プロジェクト	塩分濃度計の貸し出しとあるが、これは良いことだと考える。多くの人に貸し出してもらい意識を高めて欲しいし、減塩に慣れてほしい（習慣化）が、どのように周知するか。また、貸出期間や台数はどのようにになっているか。昨年度の貸し出し実績はいかがだったか。	周知につきましては、市広報、ホームページ、ポスター作成、各教室等で啓発しています。 昨年度は、幼稚園・保育園・小学校・中学校の食育担当者、ねたろう食育博士、食生活改善推進協議会等食に関連する団体に貸し出しについて情報提供を行い、団体が減塩に関する啓発を行う際に貸し出しを行いました。今後は、市民への貸し出しについても啓発していきたいと考えています。 実績につきましては、 ・塩分濃度計 10本 ・貸出期間 前日、当日、翌日の3日間 ・昨年度実績 5回 です。
地区食生活改善組織活動	活動の実践、推進を強化、組織の拡大に期待したい。地区社協、ふるさと作り協議会等、協力団体等の連携強化を推進する。	現在、会員の高齢化が課題の一つではありますが、養成講座・研修会等を開催し、活動の充実を図るよう支援しています。また、他団体と連携することで、一層効果的な活動ができるよう情報共有を行っていききたいと考えます。
	地区の行事に入って説明する様に市を広げて欲しいものです。	市主催の会員研修会を受講した食生活改善推進員が地区活動として、各地域で活動されています。同様に市の専門職が地域に出向いて出前講座を行っていますので、多くの場で御活用いただきたいと思います。
推進員養成講座	食生活改善推進員の養成講座は自治会での活動として推進できればいいのではないかと。	食生活改善推進員養成講座は、市主催で3年に1度実施しています。自治会単位には会員がいない場合もありますが、小学校区ごとに会員がおりますので、地域と密着した活動が可能であると考えます。
食育事業全般	朝食を食べない若者が目に付きます。うちの孫もその一人です。改善方法は何かありますか。	生活リズムの見直しを含め、朝食の必要性を理解した上で、朝食時間を十分に確保することが大切です。また、バランスのとれた朝食を自ら作ることができるよう支援することも必要であると考えます。

		今後も、そのような機会を増やしていきたいと思います。
	一部の人のみの活動になっている。料理教室での減塩のとりくみ、地産地消でも輪の広がりが少ないと思います。	関心のある方の実践に留まらず、多くの市民が、料理教室だけでなく家庭でも実践できるよう支援する必要があると考えています。そのため、学校や企業等を通じて広く住民に情報提供を行っていききたいと思います。
	「食」の大切さ、いろいろとメニューがありますが、市民の参加行動等関心がうすい様ですので関係団体と連携し密につながる活動を推進したいと…	食環境の変化に伴い、特に若い世代に食に関心がない方、また、優先順位が低くなっている方が増えていることは承知しています。地域の関係機関のみなさんと一緒にしっかりと情報を共有し、有効な手段を検討し取り組んでいけるよう引き続き御協力をいただきますと幸いです。
	コロナ禍、市民を食育事業で健康に導けるよう、事業の展開が期待されます。	コロナ禍において、食育事業を実施する上で重要な手段である調理実習、試食等を慎重に行わざるを得ない状況です。特に小さい子どもや学生がそのような体験を通して学ぶ機会が減っていることが懸念されます。市では、料理コンテスト等を開催し、学校等にも御協力いただき子どもたちの食育体験の機会を確保することで、食に関心をもち、健全な食生活が実践できるよう取り組んでいます。また、これまでのライフステージごとの食課題解決に向けた啓発に加えて、自粛生活が続き、運動不足や偏った食生活となり過食になる方への対策や感染予防に必要な免疫力が低下しないよう様々な場面で情報提供を行っています。

5. 感染症予防事業について（20～21ページ）

	御意見・御質問	市の考え方または対応
予防接種	ロタウイルス（令和2年10月から）は、どのような予防注射ですか。おしえて下さい。	ロタウイルスは胃腸炎をおこすウイルスです。口から侵入し、腸管に感染して発症します。予防接種は生ワクチン（弱毒化したウイルス）で、飲むワクチンです。
	B類疾病定期予防接種、成人用肺炎球菌ワクチンの5年きざみ（65・70・75・80・85・90・95・100）のワクチンはどのような方法で市民に知らせておられるのでしょうか。成人用肺炎球菌ワクチンの大切さをチラシ等で周知を。	対象者にはハガキで個別通知をしております。また、医療機関等にポスターの掲示や広報等での周知に努めております。
新型コロナウイルス感染症関連	新型コロナウイルスの感染拡大の長期化に伴うPCR検査の対応、ワクチン開発、医療機関設備の充実等々、情報収集、政策を感染症予防事業に盛り込む必要を検討。	現在、新型コロナウイルス感染症に対するPCR検査等については山口県により実施されています。今後、地域外来・検査センター設置により検査体制の充実を図ることとしております。
	新型コロナウイルス感染予防について市の取組を詳細に記載してほしい。	新型コロナウイルス感染予防については、市ホームページや広報に取組等を掲載しています。
	新型コロナウイルス対策について、何か対策を進めていることがあればと思った。	対策については、市内医療機関関係者と協議を行い、検査体制の整備等を協議しています。
	令和2年度事業計画が例年通りというのでは？形骸化という印象です。感染症予防事業は現在新型コロナウイルスによる影響が多々あると思います。地域と時代のニーズへの対応が必要だと思います。市民各々が、意識、知識、スキルをかえる必要はあると思いますが、市として感染症予防事業に全く記載がないのはいかがなものかと思います。	今回、令和2年度保健事業計画としてお示ししたものは、令和2年4月時点の年度当初計画です。よって、今回の計画には記載しておりませんが、新型コロナウイルス感染対策については、様々な取組を行っておりますので、今後、協議会の中でも報告させていただきます。
	新型コロナウイルス感染の疑いがある患者さんの受け入れ、対応について記載があると良いと思いました。	新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者の受け入れ等については、県での対応となります。市民の皆様にお知らせすることがありましたら、市ホームページや広報等でお知らせします。

6. 地域医療対策事業について（22～23ページ）

	御意見・御質問	市の考え方または対応
一次救急	地区の行事は土・日・祝に開催されることが多い。特に災害等は地区行事中に発生すると医者不在が有り、対応できず困ります。この点も考慮して欲しい。	日・祝日は休日当番医で診療を行っており対応しています。
全般的なこと	他の市町村と比較して当市の事業は優良比較はどうか勉強したい。	一概には言えませんが、公的医療機関や診療所等の医療機関が多数あるため、市民の安心・安全につながっていると考えています。
その他	AED設置講習の修了書交付をもらっているが1回限りなのか、又講習を受けるのでしょうか。	AEDの3時間講習を受講された方には修了証を発行しており、3年を目途に再講習を受講されることを推奨しています。受講に関するお問い合わせについては、宇部山陽小野田消防局警防課にお願いします。

●その他

(健康増進課事業に関する御意見や御提言等)

御意見・御質問	市の考え方または対応
厚狭准看護学院について、市民に必要性のPRをして下さい。看護師不足等	医療体制を充実することで、市民の安心・安全につながるため、地域医療の担い手である准看護師の養成している施設は非常に重要であると考えています。
第二次健康増進計画は、各種の活動(事業)を通して健康寿命を延伸させ寿命まで元気に過ごしてもらおうというのが趣旨・目指すものである。令和元年度の事業を進めたことによりこの趣旨は達成されつつあるか。問題点は何か。それが令和二年度の事業計画に活かされているか。健康寿命がどの程度延伸したかを示す必要がある。	当課が実施している保健事業については、全て健康寿命の延伸につながる事業であると考えています。したがって、実施している各事業につきましては、目標を設定し、実施後に評価を行い、次年度に活かしています。各事業の目標を達成することで、健康寿命の延伸に寄与していると考えています。 また健康寿命の算定方法にはいくつか種類がありますが、市町単位で算出可能である「日常生活動作が自立している期間の平均」(山口県算出)では、本市は男性は14市中1位、女性は5位となっており順位だけみると改善傾向にあります。健康寿命の数値目標については、現在研究中です。
スマイルエイジング関連事業が積極的に進められていてとても期待できますが、SOSかたつむりで行こう会とのコラボ事業も進めていけたらと思います。	SOSかたつむりで行こう会(健康増進計画運営委員会)は、市民と行政が協働して健康寿命の延伸のために、健康づくりを推進しています。スマイルエイジングも市民の健康寿命の延伸を目指していることから、今後も連携しながら進めていきたいと考えています。
新型コロナウイルス感染症対策により、様々な活動が縮小あるいは据え置き状態になっているが、終息の見通しが立たない場合に備えて、何らかの対策は検討されているのか。	新型コロナウイルス感染症の拡大状況においては、自粛生活をお願いしています。そのような状況においても、運動や健康相談等に対応するため、オンラインでの情報提供を行うこととしています。
様々な健康増進事業に対する積極的な取り組みに敬服いたします。	今後とも様々な取組、普及啓発に努めていきます。
これからも普及啓発をお願いします。	